平成３１年１月８日　中学校全校集会　校長講話「人と一緒にいること」

１月１日の新聞の社説や特集記事に目を通すと、各社が新しい年をどのようにとらえているか、また世の中の動きが見えてきます。主に、平成の振り返りや国際関係・国際協調の重要性、政治改革と選挙制度、ＡＩなどが大きく取り上げられていたと思います。

その中で私が興味を持ったのは、日本経済新聞のＡＩに関連した特集でした。「情報社会が進む中で、人間のあり方は変わるか？」との問いに対し、京都大学の山極寿一総長は、「人間は進化の歴史以来、常につながりを求めてきた。人は一人では生きられない。信頼や期待を受け、自分と他者が世界を共有して生きるのが人だ。」と答えていました。

「人は一人では生きられない」つまり、誰かと一緒に生きる、集団の中で生活することになります。皆さんは毎日こうして学校に来ています。なぜでしょう。昨年、開成中学・高等学校の柳沢校長先生や、東京大学の濱中淳子先生から「なぜ学校があるのか」といった話をお聞きしました。柳沢先生は「集団の中で活動しながら多くの知識を得るとともに、他人との意見の交換・共有の中で互いを高め合う場が学校」とおっしゃっていました。学校がある理由の一つは、集団活動や集団生活を通じて、社会性について学ぶためなのです。

ということを頭では理解できたとしても、実際には気の合う友達もいれば、意見がぶつかり合うこともあり、みんながまとまって学校生活を送ることは難しいものです。友だちとの付き合い方に悩んでいる人もいるでしょう。こうした問題は今に始まったことではなく、時代を超え、世界共通のもので、いろいろな人たちが個人と集団との関係性を考えてきました。

その一人が１８世紀のフランスの思想家、ジャン・ジャック・ルソーです。１・２年生は聞いたことがないかもしれませんが、３年生は現代社会の授業で出てきたと思います。ルソーは、「どうしたら自分のことは自分で決めつつ、他の人たちとも仲良く暮らしていけるか」を真面目に考えました。「いつまでも自分の思うまま、自由でいたい。他人には服従せず、自分自身にのみ従いたい。場の空気や人間関係にも支配されたくはない。でも、独りぼっちは嫌。友だちと一緒にいたい。」このように聞いて皆さんは、個人の意志を貫くことと集団活動が両立できると思いますか。できるとしたらどんな方法があると思いますか。

ルソーは、みんな共通の意志、つまり「一般意志」があれば両立すると考えました。一般意志にすべての人が自発的に従うことで、すべての人が自由でありながら、他の人と一緒にいることが可能になるということです。一人ひとりが何が最善か一生懸命考え、みんなでずっと議論すれば自ずと一つの意志にまとまるはずだ、とルソーは考えましたが、皆さんは、果たして本当に一つの結論に到達することは可能だと思いますか。

抽象的に考えてもイメージが湧きにくいので、身近なケースに当てはめて考えてみましょう。例えば、家庭・家族を例にとるとどうでしょうか。

「家族と一緒にいたい。でも一方で、家庭内の空気や家族関係に支配されるのは嫌。家族には服従しない。いつまでも自分のまま、自由でいたい。自分自身にのみ従いたい。家族と一緒にいながら、一人でいるときと同じくらい自由でありたい。」

何だかとてもわがままに聞こえますが、このような過ごし方ができている幸せな人がこの中にいるかもしれません。

ルソーの考えでは、わがままなのでなく「家族一人ひとりが何が最善か一生懸命考え、みんなで議論することにより、一つの意志（家族共通の意志）にたどり着き、家族それぞれが自由でありながら、家族が一緒にいることができる。」となります。確かに、家族であれば、家族共通の意志にたどり着けるかもしれません。

では、クラスをベースに考えるとどうでしょうか。３０人に増えるので、一緒に過ごす楽しさも大きくなりますが、意見をまとめる大変さも増えると思います。

この議論は、社会の中でどのようにして人と人とが一緒に暮らしていくか、どのようにして合意を図っていくか、という問題につながっていきます。つまり、組織のあり方、社会のあり方、国家のあり方の問題であり、これを解決する方法が政治となります。

実は、ルソーが取り組んだテーマ「どうしたら自分のことは自分で決められる一方で、考えの異なる人たちと共に暮らしていけるか」は、まだ答えが出ていません。現在もなお研究が続いている命題です。少しでも興味を持った人には、「未来をはじめる　―人と一緒にいることの政治学―」という本をお勧めします。学校の図書館に入れましたので読んでみてください。東京の中高一貫校で実際に行われた授業をまとめたものなので、中学生の皆さんも理解できると思います。

最後に、新年のスタートにあたって、私自身が心がけたいことをお話しします。

私事ですが、昨年４月から水泳を始め、当初の目標としていた５０ｍのクロールができるようになり、さらに３０分かけて５００ｍ泳げるようになりました。因みに最終目標は、休憩なしで１時間泳ぎ続けることです。

３月に水泳を始めようと心に決め、４月に３か月コースの教室に申し込んで、７月、１０月、１月に更新手続きを行い、今週から４期目が始まります。

　「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」アメリカのプラグマティズム思想家であるウィリアム・ジェイムズの言葉です。

私の場合は、心に決めて、行動し、習慣を変えるところまできました。今後も水泳を続けることにより、人格が変わり、さらに運命が変わるかどうか分かりませんが、続けていくつもりです。

おにぎりアクションの大宮千絵さんは昨年の講演の中で「中途半端でもいいので、とにかくやってみる」ことの大切さをおっしゃっていました。きちんとできるに越したことはありませんが、初めから完璧を求める余り、尻込みしてしまうのではなく、ちょっとだけでもいいので行動してみる。変化へのチャレンジです。

「どうせやったって～」「どうせ私には～」は禁句です。まずは小さな一歩からスタートしてみましょう。